

## 平成 22 年度・関東甲信越放射線技師学術大会開催にあたって



関東甲信越放射線技師学術大会大会長  
社団法人 群馬県放射線技師会会長  
高橋 昇

平成 21 年度から北関東地域、南関東地域の 1 都 9 県の会員が合同で学術大会を開催することになり、平成 22 年度は社団法人群馬県放射線技師会が担当し、10 月 9 日(土)～10 日(日)に前橋市内のコンベンションホール前橋テルサで開催することになりました。

近年の放射線医学は目覚ましい発展を遂げ、放射線の技術なくして診療が成り立たない時代とまで言われています。放射線診断分野では FPD をはじめ、MDCT、MRI、PET-CT、また診断技術を利用した IVR、放射線治療分野では IMRT、I-125 密封小線源治療などが重要な位置を占めるようになりました。今年度からは重粒子線治療が群馬県内で始まり、その治療効果が期待されています。

学術大会の内容としては、特別講演を前シカゴ大学カートロスマン放射線像研究所所長・教授、群馬県立健康科学大学学長の土井邦雄先生に「世界における放射線技術に関する研究」並びに社団法人日本放射線技師会の北村義明会長に「チーム医療における放射線技師の役割」、市民公開講座として群馬大学重粒子線医学研究センター准教授の大野達也先生に「重粒子線がん治療の現状と展望 ～群馬大学の取り組み～」と題して、ご講演頂く予定です。

一般演題につきましても、できる限り多くの方々が発表できるよう計画しています。

群馬県は、この季節に紅葉も見ごろを迎え、多くの温泉にも恵まれています。どうか一人でも多くの方がこの学術大会にご参加頂けますよう役員一同お待ちしております。また、学術大会の準備にあたって、ご指導ご協力を賜った関係各位に心より感謝を申し上げ、開催の挨拶と致します。